

質問 中川議員（共産・岐阜市）令和7年10月3日（金）

1 次世代型路面電車（LRT）の整備と公共交通の在り方について

（１）LRTの整備について

①事業主体について

②複数のルートと他の交通手段を含めた総合的な検討について

答弁 知事

一昨日の伊藤議員のご質問でもお答えしましたとおり、県都であり岐阜圏域の中心である岐阜市の現状、これを見てもみると、市内の百貨店が次々と閉店するなど、「商いのまち」としてのかつての賑わいが失われ、地域経済の評価指標の一つと言われております地価についても一貫して下がり続ける状況にあります。

このような中、現在、高速道路網など広域ネットワークが整備される、そうした今こそ、これらを最大限に活用して、まちなかに「人やモノ」を呼び込み、様々な観光資源など潜在的な魅力を引き出すことによって、岐阜圏域全体の賑わいを実現していくことが必要と考えております。

具体的には、県都岐阜市を中心に点在している交通拠点や歴史的・文化的拠点、そして教育・医療・福祉拠点、そして物流拠点など、人が集まる様々な拠点を有機的に線で結び、面として岐阜圏域に賑わいを広げる必要があると考えております。

また、高齢化の進展によりまして、車に依存した交通手段だけでは、そこに住む方々のニーズに満たすことは難しくなっています。これはまさに、議員にご指摘いただいたとおりです。

こうした課題に効果的に対処するための政策手段、ツールとして、現在、新たな交通システムの導入を検討しているところでございます。そして、学生や高齢者、障がいのある方など全ての方が安全で快適に移動することができる、次世代型路面電車LRTを有力候補として検討を始めたところでございます。

まず、事業主体でありますけれども、国内の先進事例を見ましても、宇都宮市のような「新会社を設立する第三セクター方式」だとか、富山市が行っておられますような「官民連携方式」など様々な方式があります。

現在、関係者との協議や国内外の先進事例の調査を進めているところでございますけれども、今後、岐阜市や羽島市、そして鉄道事業者などしっかりと議論を行いまして、新たなビジネスとして民間投資を呼び込むなど、本県において最適な方式を検討していきたいというふうに考えております。

その関連で、ルートについてお答えをさせていただきます。先般、各拠点を結ぶ観点からイメージという形でルートをお示ししたところでありますけれども、具体的な

ルートにつきましては、もちろん道路交通への影響だとか利用者の需要といった、様々な調査・検討を経て決定するものであり、現時点で確定したものではありません。

ただし、ルートの検討に当たりましては、利用者の利便性や、道路交通への影響といった点に加えまして、想定される利用者数から事業としての採算性が見込まれるといった視点が重要だというふうに考えております。これはまさに議員ご指摘の持続可能な制度でなければならないという観点で、そういう意味で事業として逆に成り立つ見込みがあれば、民間資金の活用も含めて、資金調達の可能性は大幅に拡大いたします。今回の調査事業におきましては、そうした検討のベースとなりますデータ分析を行う予定でございます。

ちなみに、今回お示ししたイメージのルートですけれども、駅やインターチェンジを起点にいたしまして、規模の大きな病院、そして市内にある多くの高校、かなりの数ですけれども、そこ、そして、大学、更には複数のショッピングモールやスポーツ施設、ホールなどを経由するルートとなっております。なので、当初から、かなりの数の利用客が見込まれまして、事業性も十分視野に入れたものになっております。そうした点で継続性を考えながら、一案として示したものです。

今後、本議会に上程しております補正予算を活用して、更に詳細な調査やデータ分析、そして更には、まちづくりに伴う利用者の将来推計、これらを様々な検討を行いまして、ルートの設定を行っていきたいと考えております。

また、関連する交通手段につきましても、既存バス路線との接続、そして接続に伴う再編、パークアンドライド拠点の整備などの検討を行うこととしておりまして、その中で、バス高速輸送システムいわゆる BRT だとか、自動運転バスなども含めて地域全体として最適な交通網の構築に向けた検討を行ってまいります。

この際、主たる利用者となられます地域住民の声や、関係者の意見などを十分に踏まえて検討を進めてまいります。

担 当 課 都市政策課

電話番号 058-272-8628

メー ル c11654@pref.gifu.lg.jp

質問 中川議員（共産・岐阜市）令和7年10月3日（金）

1 次世代型路面電車（LRT）の整備と公共交通の在り方について

（2）公共交通に係る計画について

- ① 岐阜県地域公共交通計画における理念とLRTの整備の位置付けについて
- ② LRTの整備、岐阜市総合交通計画及び岐阜県地域公共交通計画との整合性と今後の対応について

答弁 知事

地域公共交通計画は「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにするマスタープランとしての役割を果たすものでございます。

本県におきましては、「地域公共交通の維持・活性化による『誰もが暮らしやすい地域』の実現」を基本方針に掲げまして、地域の足を残していくとともに、DX、デジタル技術をはじめとした新技術の導入やバリアフリー化等により、効率的で、誰もが利用しやすい公共交通の実現に向けた取組を進めていくこととしております。

加えて、社会情勢の変化や、交通インフラ整備などに伴う需要の変化に合わせて、適切な地域公共交通ネットワークを検討していくものであります。

このため、新たな交通システムの導入の検討にあたりましては、現在の本県の地域公共交通計画に掲げた「効率的で、誰もが利用しやすい公共交通の実現」という基本的な考え方に、「中心市街地に人を呼び込み、地域を活性化する」という観点も加えたいと考えております。

また、今後事業化を推進する場合には、既存のバス路線等の地域内交通も含め、岐阜圏域の交通体系の再編を考えていく必要性がありますので、当然、県や市の交通計画にも反映していくべきと考えております。

今後、岐阜市や羽島市との間で、新たな交通システムの在り方について調整が図られた段階において、県と市の交通計画への反映について、適切に対応してまいります。

担 当 課 公共交通課

電話番号 058-272-8654

メー ル c11134@pref.gifu.lg.jp

質問 中川議員（共産・岐阜市）令和7年10月3日（金）

1 次世代型路面電車（LRT）の整備と公共交通の在り方について

（3）住民からの要望を踏まえた公共交通施策の推進について

答弁 知事

これも議員ご指摘のとおり、新たな交通システムにつきましては、地域住民のニーズを踏まえまして、ご理解いただきながら検討を進めていくことが何より重要だと考えております。

私自身これまで、4年間も含めて、地域住民の方々と接する機会、様々な方からお話を聞く中で、やはり地域公共交通の将来に対する不安の声、これをたくさん耳にしていまいりました。具体的には、これも議員ご指摘いただきましたけど、「運転免許を返納したらどうやって買物や病院に行けばいいのか」という高齢者の声、そして「雨の日の渋滞で塾や学校への送り迎えが大変だ」という子育て世代の声、更には「学校への長距離の自転車通学が不安だ」という学生の声など、住民の方々の様々な声が今回のLRTを有力候補とした新たな交通システムの検討につながっているものでございます。

また現在の交通システムを見てみましても、岐阜圏域の路線バスは、今年度に入って既に4路線が廃止となっており、運行本数も対前年度比で約10%減少するなど、地域のニーズに応えきれていないのが実情でございます。

さらに、特に問題なのが、バスの運転手が確保できないという問題、そしてこの状況は更に厳しくなるということが予想されております。そうしたことから、都市の軸となる部分に基幹交通システムを導入して、バス路線の再編などによって大切な、貴重な運転手の方々に、地域全体の足として活躍していただくことで、将来を見据えた形で、地域全体を支える新たな交通システムの構築が必要となってきたと考えております。

県としましては、こうした状況を総合的に勘案して、先日、新たな交通基幹システムとしてはLRTがよいのではないかという構想をお示したところでございます。

これまで、経済界、商店街、交通事業者など様々な立場の方々からまちづくりについて意見を伺ってまいりましたが、今後更に関係者との協議を進め、実現可能性を含めた調査・検討を行ってまいります。その上で、今年度末を目標に、岐阜市や羽島市、事業関係者、警察など、関係機関で構成する検討体制を構築し、既存の交通システムへ見直しを含めた新たな交通システムのあり方について議論を進めてまいりたいと考えております。

その際、一定の議論が進んだ段階ごとに積極的に情報開示するなど、県民の皆様に

対し検討状況をお示ししていく予定でございます。

また、先月、岐阜市東部地域の自治会の皆様からご要望をいただき、私自身が直接意見交換を行ったように、今後も、こうした場を積極的に設けることで、地域住民の皆様の声を十分に踏まえ、県民の皆様のご理解を得ながら、岐阜圏域のまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

担 当 課 都市政策課

電話番号 058-272-8628

メー ル c11654@pref.gifu.lg.jp

再質問 答弁 知事

議員ご質問の中で、1点言葉を整理しなきゃいけないかなと思っていますのは、新たな交通システムのネットワークを考えていることと、LRT はイコールではありません。

すなわち、まず地域全体としてどういう交通システムが要るのかというのは既存システムを含めて、もう1回見直す中でその基幹部分にLRTを入れてはどうかというのが説明でありますので、従いまして、今のご質問だとLRTだけで全部のニーズを解決しますよみたいな話になってしまうと、それはそれで多分難しいことになると思います。

もし、そう誤解してるのであれば、もう一度ちゃんと説明させていただきたいと思っておりますのは、まずはこの岐阜圏域の活性化、昨日ご答弁させていたように各圏域においてバランスよく発展してく中で、特にこの県都岐阜市におきましては、どんどんその活性化が失われている流れの中で、まずどうこれを止めていくのか。その中の1つの考え方として、人やモノを呼び込む、もちろん中にいる人たちの動きも含めて考えたときに、新たな交通ネットワークはいるのではないかと。そうすると、先ほど申し上げたように、既存システムの再編も含め、どういうやり方がいいのか。その中で運転手が減っていく、どんどん本数が減らされる中で、まず基幹の一番太いところに関しては、LRTを置くことによって、そうした再編が非常にしやすくなる中で、いろんなニーズを応えていってはどうかと。これはまず最初の提案でございます。

そんな中で、私自身も4年間聞いてきた、そして私自身が山県市出身でありますので、かつて高富であった電車が、それはもちろんあった方がいいんですけども、逆に言うと、費用対効果ということで、そこに住んでいらっしゃる方自身のニーズをすべて満たすことはかなり難しいです。その中で、この地域はバスがいいのかLRTがいいのか。特にLRTの場合は、坂道には耐えられませんので、ある程度山間部についてLRTは難しいです。ただ逆に言うと、今回、今後検証していきますけど、新しいタイプのLRTですから、費用対効果も考えて今までと同じではないかもしれません。

すでにある地域においては、工業団地と一緒にすることによって新たなニーズが生まれて活性化した、そうしたことをこれから検証していく必要があると思いますので、もちろん今住んでおられる方が、特に買い物だとか病院だとかに、ニーズがあることは私も理解しております。逆に言うと、そういう方々にとって、やっぱりバスの路線をしっかりと残していかなきゃいけない。そのために、逆に言うと、今すべてのバスが岐阜駅の真ん中に集中する形になっていきますけれども、そんな中で将来を見ていくのか、それともここに基幹があることによって、そうしたバス路線がさらに生かされる形で、特に遠くの地域の方々のそうした移動とニーズに対して応えていくのか、まさにそれを考えるのがこの今回の取組であります。

特に今回、理事という新しいポストを設けて考えてやられてるのは、岐阜圏域及び

東濃圏域、こちらもう少し広いルートになりますけれども、リニアが来たときにどう
いう人の動きがあつて、その中でどうこの地域を活性していくのか。今回、同じよう
に岐阜圏域においても、そうした人の動き、活性化の範囲で考えると。1つの案とし
て、今回インフラが整備されますインター、そして羽島駅、この辺りを考えることが
おそらく合理的じゃないかという提案をしているだけで、今後の議論によってもう少し
広い地域、今、要望がありますように、いろんな地域からまた声があると思いますけ
ども、まずはコアとなる部分をしっかり考えた上で、今後の議論の展開をしていき
たいというふうに思っております。

再々質問 答弁 知事

おそらく、言葉の使い方をもう少し私も正確にしたほうがよかったかなと思ってお
りますけども、「岐阜圏域」と言ったときに、5圏域の岐阜圏域全体ということでは
なくて、「岐阜圏域におけるまちづくり」ということで私は説明してきたと思うん
ですけど、特に、岐阜圏域全体の端から端まで見てるって話は私は1度もしておりま
せん。

岐阜圏域の中の、特に中心部ですね、まさにご指摘ありましたように、まさに人を
呼び込んで、まさに活性化していない部分についての人を呼び込むという文脈で私は
ずっと説明してると思ってるんですが、それが多分岐阜圏域という言葉に引っ張られ
て山県市もあそこも全部みたいな話になってしまうわけではないと思っています。

ただ、こうした議論はですね、当然のことながらご指摘のとおり、「大きく皆さん
の意見を聞いてからまとめろ」という意見と、みんな聞くと「早く具体的に出せ」と
必ず両方が出てきますので、そういう意味では、まずは今岐阜県にとってそしてこの
岐阜市にとって活性化するための案として我々が出したものです。

これを議論する中で、外に向かってどれぐらい見いだすかというのはいろんな要望
を含めて考えていきたいと思っておりますけど、初めから岐阜圏域全体の話をしているつ
もりはありませんし、ただそれが岐阜圏域という言葉に引っ張られてしまうのであれ
ば、今後はちょっと訂正したいというふうに思っております。

ただ、この岐阜圏域の中だけでもですね、非常にいろんな議論がありますし、この
議論というのは、岐阜圏域で閉じるものではありません。

もう既にありますように、他の圏域の方からも「うちの方でも」というのは当然あ
りますので。ただそうした議論をするためにもこのコアたる部分においてのしっかり
した議論をした上で、採算性も含め、いろんなニーズをどうやったら解決できるのか、
これはある意味1つの大きな試金石になると思っておりますので、それを今回の調査
予算を使い、そしてその中でどこまで広げたらいいのか、これも含めて、今後いろ
んな議論を伺った上で進めていきたいというふうに思っております。

担 当 課 都市政策課

電話番号 058-272-8628

メ ー ル c11654@pref.gifu.lg.jp